

# 奈良市景観計画 (都) 西九条佐保線沿道景観形成重点地区

(都)西九条佐保線は、奈良への新たな玄関口となる(仮称)奈良ICの整備を踏まえ、IC周辺の新しいまちと奈良市中心市街地を結ぶ主要幹線道路として建設が進められている都市計画道路であり、道路自体は景観重要公共施設にも指定して、歴史的風土を感じられる緑の軸として、「奈良への来訪感を感じる緑のみち」としての周辺景観と一体感のある景観整備を図ることとしています。

沿道敷地の緑化や建築物等の配置や規模、形態・意匠等の工夫などを通じて、奈良への来訪感を演出できる沿道景観の形成を推進します。

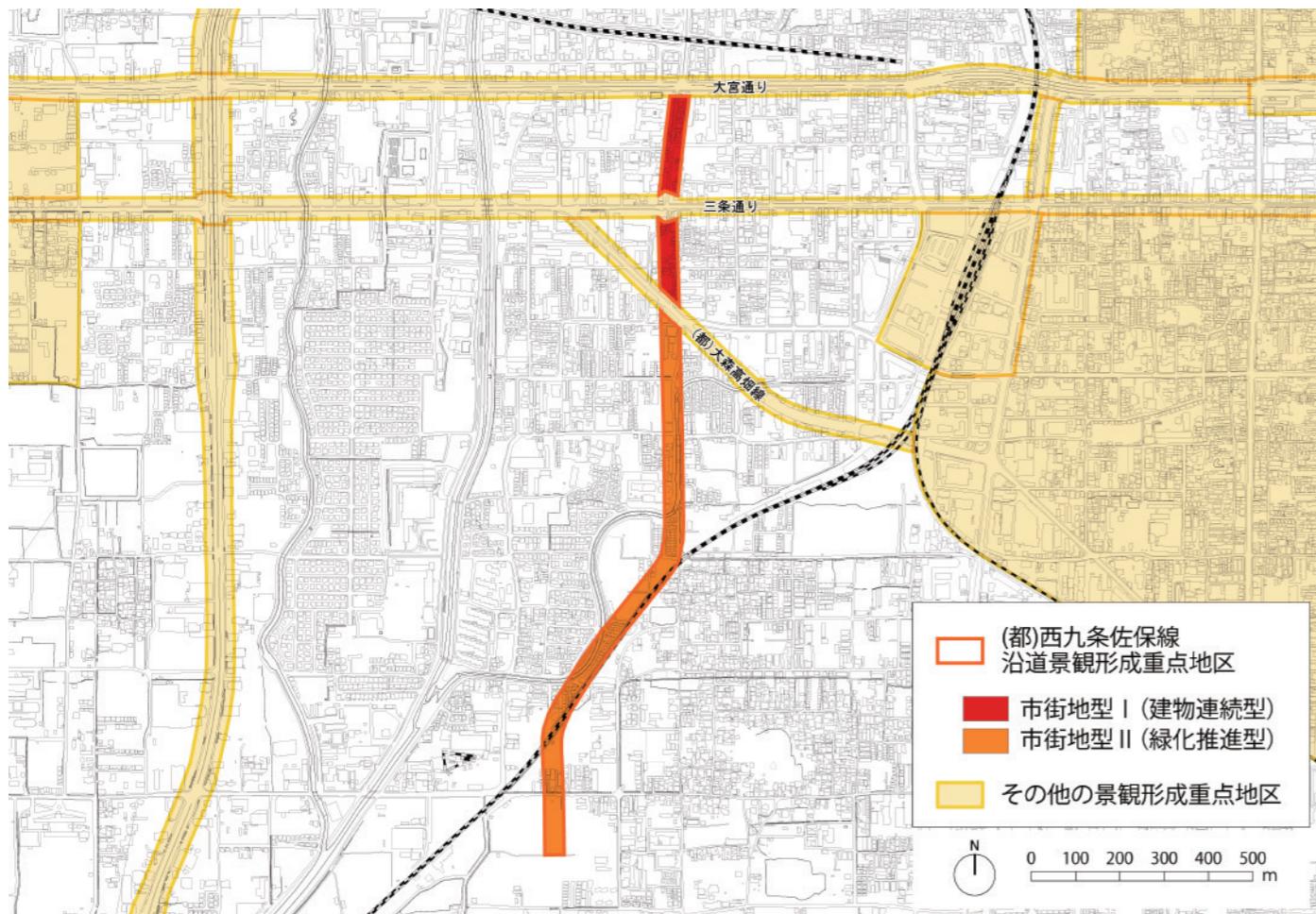
市街地型Ⅰの区間については、沿道の建築物等による町並みやスカイラインの連続性を感じられる景観を形成します。

市街地型Ⅱの区間については、沿道敷地の緑化を推進し、街路樹や緩衝緑地等の緑と沿道敷地の緑が一体となった緑豊かな道路景観を形成します。

## 指定区域図

(都)西九条佐保線の一部区間(大宮通りとの合流地点から(仮称)奈良ICまでの区間)の両側10mの範囲。(延長:約2.0km)

下図のとおり、市街地型Ⅰ(建物連続型)・市街地型Ⅱ(緑化推進型)の2地区に区分します。



## 景観形成基準 その1

※ 基準を適用する区域を ■ で表示

項目	景観形成基準		市街地型Ⅰ	市街地型Ⅱ	解説ページ	
	共通	建築物の建築等				
共通	b-1	・景観区域・景観軸の景観形成方針並びに景観形成重点地区の景観形成方針に基づいた計画・設計を行い、周辺景観との調和に配慮すること。	■	■	129	
	b-2	・『奈良市眺望景観保全活用計画』に定める「重要眺望景観」を阻害しない配置・規模、形態・意匠とすること。	■	■	15	
建築物の建築等	配置規模	b-3	・威圧感・圧迫感の軽減や道路等からの見え方、町並みやスカイラインの連続性の確保等に配慮した配置・規模とすること。	■	■	16-17
		b-4	・町並みの壁面線をそろえること。	■	■	130
		b-5	・道路境界線から1m以上後退した配置とすること。	■	■	130
		b-8	・長大な壁面となる場合は、適度な凹凸や色彩の濃淡による壁面の分節化などにより、圧迫感の軽減および単調な壁面とならない措置を講ずること。	■	■	19
		b-9	・周辺景観に対して突出感・違和感を与えない形態・意匠とすること。	■	■	19
	b-11	・奈良らしい伝統的なデザインをモチーフに取り入れ、奈良への導入路・景観軸に面する建築物にふさわしい形態・意匠とすること。	■	■	20-21	
	b-12	・隣接する建築物と1階及び2階部分の階高を揃えるなど、町並みの連続性に配慮した形態・意匠とすること。	■	■	131	
	b-13	・道路に面する屋根は、勾配屋根を用いるなど、地域特性を生かした形状とすること。	■	■	20	
	b-14	・道路に面する開口部は、周辺景観に対して突出感・違和感を与えない形態・意匠とすること。	■	■	22	
	b-15	・建築設備の設置や屋外広告物の掲出等を見据え、それらを建築物に一体化した形態・意匠とすること。	■	■	131	
	b-17	・屋上設備や塔屋は、ルーバーによる覆い措置や壁面の立ち上げ等により、道路等から見えないようにすること。	■	■	132	
	b-18	・配管やダクト類等の壁面設備や室外機等は、道路等に露出して設置しないこと。やむを得ない場合は、外壁面と同色仕上げや緑化による遮蔽などの措置を講ずること。	■	■	23	
	b-19	・道路に面するバルコニーは、建築物と一体的な意匠とし、道路等から洗濯物や設備等が直接見えない措置を講ずること。	■	■	23	
	b-20	・道路に面する屋外階段は、建築物との一体化やルーバーによる覆いなどの措置を講ずること。	■	■	24	
	b-21	・屋根や外壁に太陽光発電設備を設置する場合は、建築物との一体化等により道路等からの見え方に配慮するとともに、太陽光パネル及びフレームは低反射で黒・濃灰・濃茶・濃紺の模様が目立たないものとする。	■	■	24	
	色彩材料	b-22	・屋根や外壁その他これらに準ずる箇所の色彩は、別表2に示す色彩基準に適合すること。ただし、無塗装、透明塗装、浸透性塗装による古色塗りされた自然素材を使用する場合は、この限りでない。	■	■	133-136
		b-23	・各面見付面積の20分の1未満については、アクセント色として別表2に示す色彩基準の範囲外の色彩を使用することができる。ただし、この場合、色数は3以下とし、高さ15mを超える部分には用いないこと。	■	■	30
		b-24	・多色の使用は避け、複数の色彩を使用する場合は、色相・明度・彩度の差を小さくし、色彩調和に配慮すること。また、同一敷地内の建築物相互の色彩調和にも配慮すること。	■	■	31
		b-25	・パターン柄等による過度な模様・配色は用いないこと。	■	■	32
		b-26	・外壁に使用する主要な材料は、光沢のないものとする。	■	■	32
b-28		・外観に光源等の装飾を施す場合は、その光源等が形成する面積が、各面見付面積の5分の1を超えないこと。	■	■	137	

※ 景観形成基準の詳細は、「奈良市景観ガイドライン(建築・開発行為編)」をご覧ください。



# 奈良市景観計画 (都) 西九条佐保線沿道景観形成重点地区

## 景観形成基準 その2

※ 基準を適用する区域を ■ で表示

項目	景観形成基準	市街地型Ⅰ	市街地型Ⅱ	解説ページ
建築物の建築等	緑化外構等	b-29		33
		b-31		139
		b-32		140
		b-33		33
工作物の建設等	建設等	b-34		141
		b-36		141
		b-37		34
開発行為土地の形質の変更等	形質の変更等	b-38		35
		b-39		35
		b-41		36
		b-42		36
		b-44		37
物件の堆積	堆積	b-45		37
		b-46		38
		b-47		38

※ 景観形成基準の詳細は、「奈良市景観ガイドライン（建築・開発行為編）」をご覧ください。

## 各地区のデザインイメージ

### 市街地型Ⅰ（建物連続型）

**全般**

- 奈良らしい伝統的なデザインをモチーフに取り入れる

**配置等**

- 町並みの壁面線を揃える
- 隣接する建築物との1階・2階の階高を揃えるなどによる町並みの連続性の確保

**屋根形状**

- 勾配屋根などの地域特性を生かした形状

**屋上設備・塔屋**

- ルーバーによる覆い措置や壁面の立ち上げ等による見え方の配慮

**外壁材料・仕上げ**

- 光沢のないもの
- 光源等の装飾：各面見付面積の1/5以下

**色彩**

- 色彩基準2-④
- 各面見付面積の1/20以下でアクセント色使用可(3色以下、高さ15m以下)

**緑化**

- オープンスペースは可能な限り在来種等で緑化

### 市街地型Ⅱ（緑化推進型）

**全般**

- 奈良らしい伝統的なデザインをモチーフに取り入れる

**配置等**

- 道路境界線からの後退距離：1m以上

**屋根形状**

- 勾配屋根などの地域特性を生かした形状

**屋上設備・塔屋**

- ルーバーによる覆い措置や壁面の立ち上げ等による見え方の配慮

**外壁材料・仕上げ**

- 光沢のないもの
- 光源等の装飾：各面見付面積の1/5以下

**色彩**

- 色彩基準2-④
- 各面見付面積の1/20以下でアクセント色使用可(3色以下、高さ15m以下)

**緑化**

- オープンスペースは可能な限り在来種等で緑化
- 緑化面積：敷地面積の3%以上(敷地の道路側)

詳細を示した、『奈良市景観計画』や基準をイラスト化した『奈良市景観ガイドライン』は奈良市ホームページをご覧ください。  
 (「奈良市役所ホームページのトップページ」→上部「くらし・手続き」→「住まい・引っ越し」→「景観・風致・屋外広告物等」)

## 色彩基準

基準区分	建築物の外壁等、工作物		建築物の屋根	
	2-④			
対象区域	市街地型Ⅰ 市街地型Ⅱ		市街地型Ⅰ 市街地型Ⅱ	
色相	明度	彩度	明度	彩度
0.0R 以上 5.0R 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	8.0 以下	2.0 以下	4.0 以下	2.0 以下
5.0R 以上 10.0R 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	5.0 超 8.0 以下	2.0 以下	4.0 以下	2.0 以下
0.0YR 以上 5.0YR 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	7.0 超 8.0 以下	2.0 以下	4.0 以下	2.0 以下
5.0YR 以上 10.0YR 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	6.0 超 8.0 以下	2.0 以下	4.0 以下	3.0 以下
0.0Y 以上 5.0Y 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	5.0 超 8.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	3.0 以下
5.0Y 以上 10.0Y 未満	8.0 超	×	4.0 超	×
	5.0 超 8.0 以下	2.0 以下	4.0 以下	2.0 以下
その他色相	×	×	×	×
無彩色	8.0 超	×	4.0 超	×
	8.0 以下	○	4.0 以下	○

※：低層部（1・2階）の外壁等に限っては、無彩色についてはN9.0以下も認める。